

連載企画—音の博物館—

## 金沢工業大学ポピュラー・ミュージック・コレクション\*

平山 亮 (金沢工業大学)\*\*

金沢工業大学ライブラリーセンターのポピュラー・ミュージック・コレクション (PMC) は、アナログ・レコードのコレクションである。約 15 万枚の LP (Long Playing) レコードを中心に、シングル盤その他を含めて約 20 万枚の所蔵がある。フロアには、常時約 1 万枚の LP がレコード棚に置かれて自由に閲覧でき、設置されているレコードプレーヤで、好きなレコードを聴くことができる。その他の大量のレコードは所蔵庫のレコード棚にぎっしり保管されているが、データベース化されているため、パソコンで検索して、容易に利用することができる。

PMC は、LP から CD (Compact Disc) への世代交代が進み LP レコードがほとんど生産されなくなる 1990 年代初頭、20 世紀最大の文化とも言えるポピュラー・ミュージックを記録した貴重な文化財が失われると危惧したプロデューサーの立川直樹氏の提案と寄贈により、1992 年に始まった。以来、全国の愛好家からの寄贈によってコレクションを増やし現在に至っている。

無料で一般公開していて、学生、教職員のほか、地元の愛好者、旅行者など、誰でも利用することができる。わざわざ遠隔地から来られる方や旅行のついでに立ち寄られる方も多く、隠れた人気スポットとなっている。金沢にお越しの際は是非立ち寄られるとよい。

LP レコード全盛の 1970 年代～1980 年代のロック、ジャズ、日本のポップスなどの懐かしいレコードがジャンル別アーティスト別にレコード棚に並び順番に見ているだけでも飽きない。思い出のあるレコードを 1 枚選んで聴くと、25 年ほど昔にタイムスリップできる。昔聞いた曲が聴けて懐かしいということもあるが、それだけでなくアナログレコード独特の滑らかで深みのある音質、針を落



図-1 金沢工大 PMC のフロア

とすときのプチッという音、曲の前後のチリチリという音、傷やホコリによりブチブチいう音、回転ムラや反りによるうねるような音、そういった雑音も含め、また、聴覚だけでなく、ジャケットアート、レコード大きさ・形など視覚的なもの、30 cm もある円盤をジャケットから取り出して注意深くプレーヤに載せるといった触った感覚や動作の感覚、それらの複合的な感覚を通して昔のことを想起できるのではないかと感じる。

もちろん、当時の技術者は、いかに原音に忠実に録音し再生するかということにしのぎをけずっていたのであるが、技術的、方式的、コスト的な限界から、原音と全く同じ音は出せない。しかしその限界のある音が特徴として懐かしさを感じさせている。LP レコードを懐かしく思う世代は 40 歳～60 歳ぐらいであろうか。丁度大学生の子を持つ親御さんくらいの年齢であり、学生の保護者の方には特に人気がある。

そのような世代にだけ人気かと思うと、そうでもなく、PMC で初めてレコードに触れた若者でも、その音楽、CD と違う音質、ジャケットアートに夢中になってしまう人も多いと聞いた。いろいろな音楽・音に親しんで、次には、次世代の音を創り出してほしいと思う。いずれ、現在の音楽性や、圧縮音響をケータイでダウンロードしてバランスが悪いインナイヤホンで聴いた音質を懐かしく感じる時代も来るのであろう。

\* Popular Music Collection at Kanazawa Institute of Technology.

\*\* Makoto J. Hirayama (Kanazawa Institute of Technology, Nonouchi, 921-8501)  
e-mail: mako@infor.kanazawa-it.ac.jp